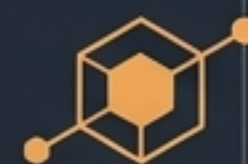


画像生成AIの実務導入に関する比較調査と戦略的評価



Nano Banana 2.1 vs. GPT Image 2.5 –
知財・法務部門向け導入ガイドライン

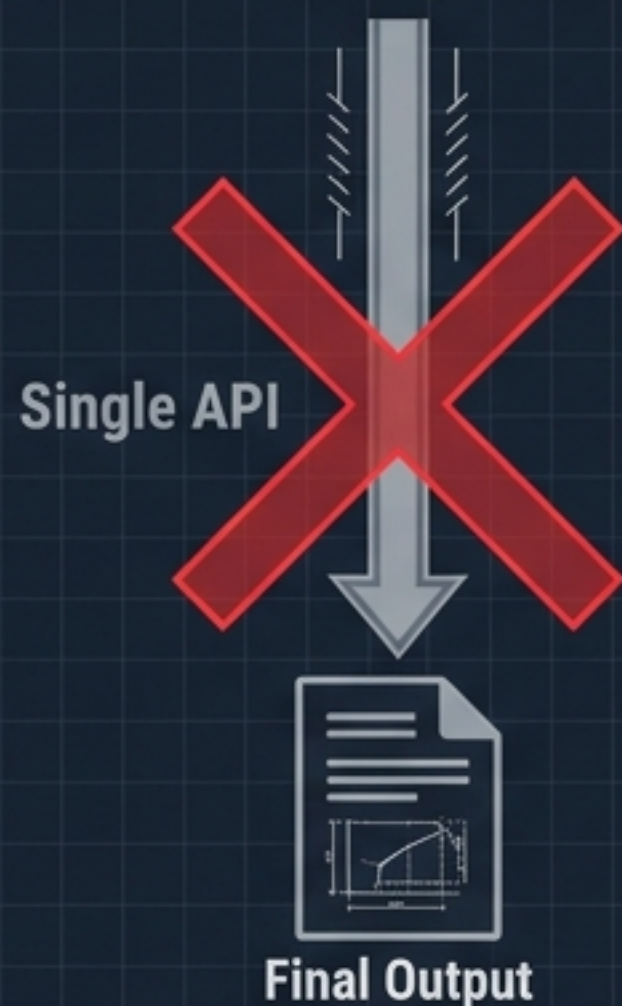


[CRITICAL DATE] 調査基準日：2026年10月11日（最新仕様に基づく）

CONFIDENTIAL & PROPRIETARY / INTERNAL POLICY GUIDANCE

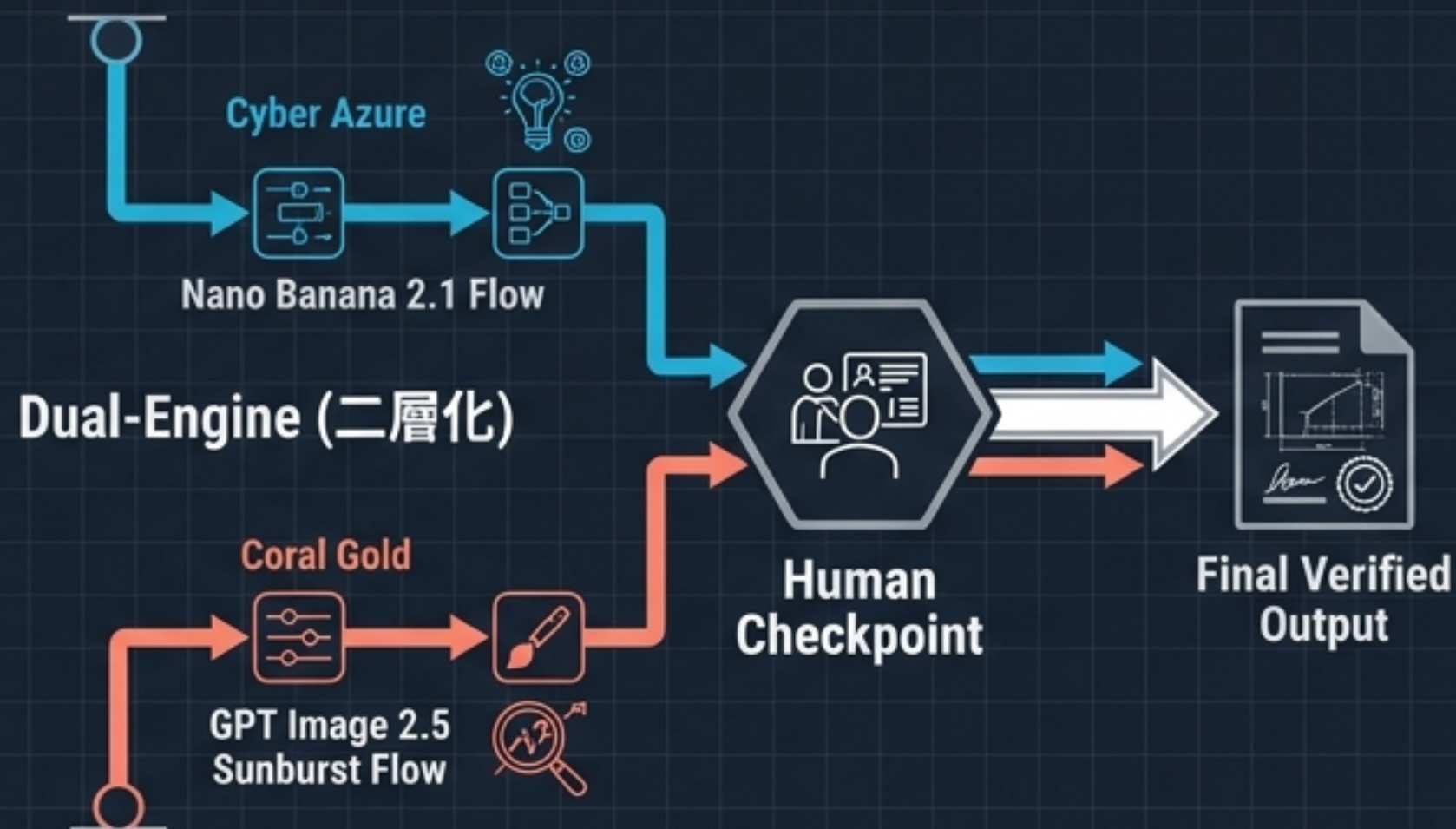
パラダイムシフト：単一モデルへの依存からの脱却

避けるべきアプローチ

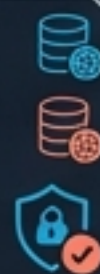


- 「一社に統一する」単一ベンダー依存
- 生成画像を無審査で「最終成果物（特許図面・法的証拠）」とする運用

推奨するアプローチ（二層化戦略）



- 上流（探索・図解）：Nano Banana 2.1による大量生成と事実確認
- 下流（精密編集）：GPT Image 2.5 Sunburstによる局所修正と高品質化
- 必須要件：法務承認済みの企業向けAPI環境と、人間による「知財審査ゲート」の設置

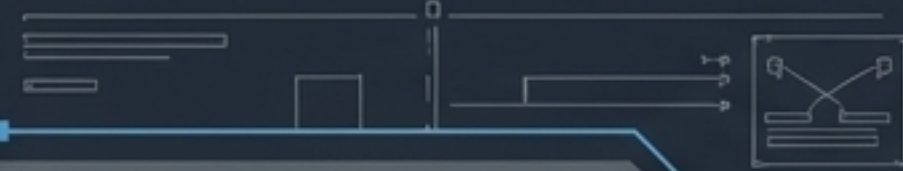


評価対象モデルのアーキタイプと基本プロフィール

【統合図解エンジン】

Nano Banana 2.1

(Google / 2026年10月6日公開)



Key Specs

最大14枚の参照画像、Google Search グラウンディング、1K/2K/4Kネイティブ対応。

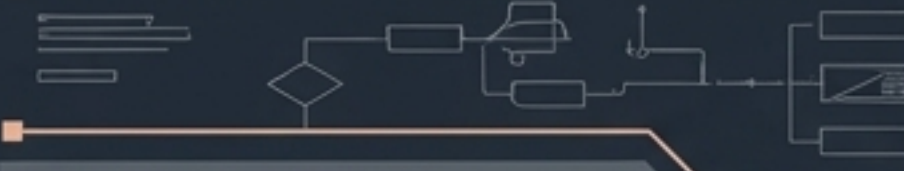
Core Role

技術構造の理解、インフォグラフィックの初稿作成、大量探索。

【高速反復エンジン】

GPT-Image 2.5 Flare

(OpenAI / 2026年9月8日公開)



Key Specs

GPT-Image-2比で50%低レイテンシ、軽量設計。

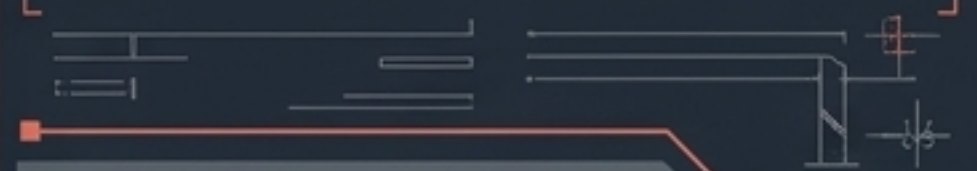
Core Role

対話的な大量案出し、方向性の迅速なスクリーニング。

【精密編集・高品質エンジン】

GPT-Image 2.5

Sunburst (OpenAI)



Key Specs

Arena総合1位、高度な参照保持機能、透明背景対応。

Core Role

既存意匠を壊さない局所編集、最終ビジュアル候補の精密化。

知財業務向け・能力評価マトリックス

評価次元	GPT-Image 2.5 Sunburst	Nano Banana 2.1
純粋な生成品質	● ● ● ● ●	● ● ● ○
精密画像編集・局所修正	● ● ● ● ●	● ● ● ○
多画像合成・参照保持能力	● ● ● ● ●	● ● ● ○
技術図解・検索事実との統合	● ● ● ○	● ● ● ● ●
コスト予測・単価管理の容易さ	● ● ● ○	● ● ● ● ●
知財最終成果物への無審査利用	● ● ● (非推奨)	● ● ● (非推奨)

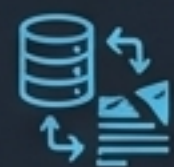
※2026年10月時点のArenaスコア (Preliminary) および内部評価データに基づく独自の相対評価。

用途別の圧倒的優位性 (Strengths Deep Dive)

Information & Structure
(情報・構造)

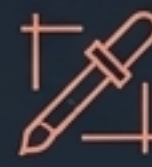
Precision & Aesthetics
(精密・意匠)

【統合図解エンジン】 Nano Banana 2.1 強み



- 事実に根ざしたインフォグラフィック: Google Search Groundingにより、外部事実を確認しながら図解を生成 (Factuality評価: 0.521)。
- 高度な構造理解: 最大1Mのコンテキスト長と14枚の参照画像 (4人物+10オブジェクト) を一括処理。

【精密編集・高品質エンジン】 GPT-Image 2.5 Sunburst 強み



- 意匠を保護する局所編集: Arena Single Image Edit 1位。指定部材のみを置換し、周囲のデザインや照明を完全に維持。
- 実務向け出力形式: 透明背景のネイティブ対応、複雑な看板文字や翻訳図解のレイアウト維持。

知財実務の要請：単純な「美しさ」よりも、変更箇所の限定性、事実のグラウンディング、参照符号の一貫性が問われる。

コスト構造とスケーラビリティ (Cost Architecture)

Nano Banana 2.1 (定額的・予算管理重視)

Cyber Azure



- 画像解像度ベースの明確な単価設定。
- Batch API (最大24時間) 利用で約半額 (1K \$0.0168〜)。大量出力の予算固定が容易。

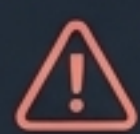
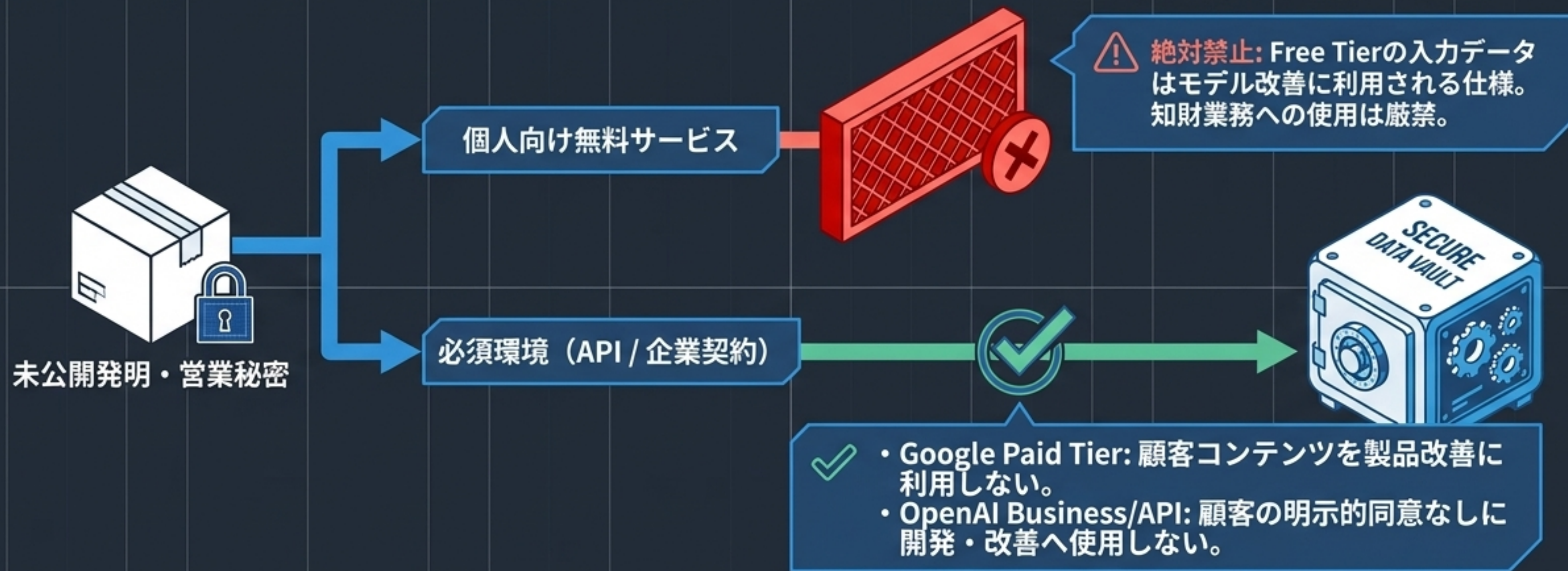
GPT-Image 2.5 (変動的・実測必須)

Coral Gold



- 画像出力トークンベース (\$30 / 1M tokens)。
「1Kなら固定で何ドル」という換算がない。
- 月額画像出力費 $\approx$ 生成枚数 $\times$ 1枚あたり実測平均トークン $\times$ \$30 / 1M。
- 推奨アクション: 全面導入前にPoCを実施し、自社プロンプトの平均トークン消費量を採取すること。

機密性の壁：API要件とデータ・プライバシー



※企業契約により「AI学習への利用」は防げるが、「外部クラウドへの送信」自体は発生する。社内DLP（情報漏洩防止）、アクセス制御、輸出管理のクリアが導入の絶対条件となる。

法的現実：著作権・商標・証拠能力に関する誤解



著作権の不在 (Copyright)

事実：契約上の「Outputの所有」は、法律上の「排他的著作権の発生」を意味しない。

法的見解：米国著作権局（2025年1月）やThaler判決の通り、著作権成立には人間の創作的寄与が必須である。



商標の類似リスク (Trademark)

事実：AIの出力は一意ではない（非独自性）。

対応：OpenAIも「他ユーザーに類似出力があり得る」と明示。最終候補は通常の商標クリアランス（先行図形・類似調査）ルートへ必ず戻すこと。



証拠能力の無効性 (Evidence)

事実：AI生成物は「現実の事実（侵害事実）」を証明しない。

対応：C2PAやSynthIDは「AI生成の経路」の証明に過ぎない。現実の侵害証拠は、実世界ソースの真正性（取得経路の記録）が全てである。

統合ワークフロー：Dual-Engine パイプライン

Phase 1: 上流 (Explore & Draft)

Powered by Nano Banana 2.1

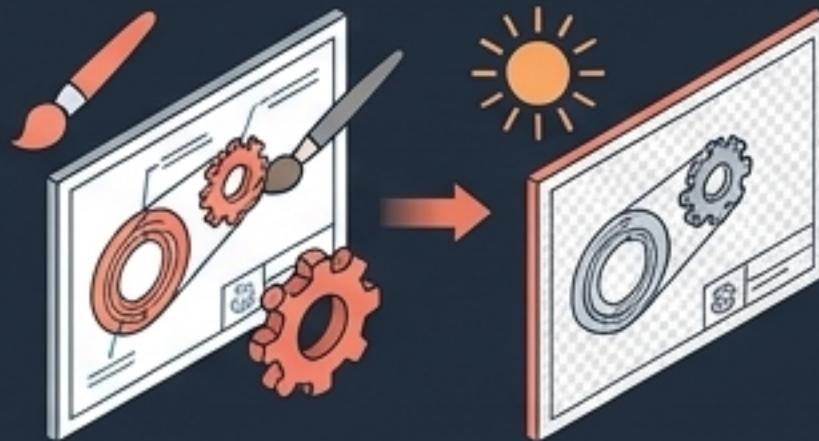
大量の技術文書・参照画像から概念図やインフォグラフィック初稿を一気に生成。Search Groundingで技術的事実性を確保。



Phase 2: 中流 (Refine & Edit)

Powered by GPT-Image 2.5 Sunburst

構造が決まった後、特定部材のみの精密な置換、背景透過、意匠を維持した高品質ビジュアルへの昇華を行う。



Phase 3: 下流 (Finalize & Lock)

Powered by Human + CAD/Vector

AIからの切り離し。参照符号、厳密な寸法、断面図、最終組版を目視確認し、Illustrator等の決定論的ツールで法的成果物として確定する。



タスク別アロケーション・マップ (Task Allocation)

Nano Banana 2.1へ割り当て (探索・図解)

- ・特許技術説明図の初稿・複数アイデアの可視化
- ・検索情報を含む技術インフォグラフィック
- ・大量の参照資料（最大14枚）の統合理解



GPT-Image 2.5 Sunburstへ割り当て (精密・意匠)

- ・ブランド・製品ビジュアルの最終候補作成
- ・既存デザインを壊さない多段階の部分修正
- ・商品画像からの背景透過・合成



GPT-Image 2.5 Flareへ割り当て (反復・速度)

- ・対話的な大量案出し・方向性のスクリーニング



AI使用禁止・人間のみ (決定・証拠)

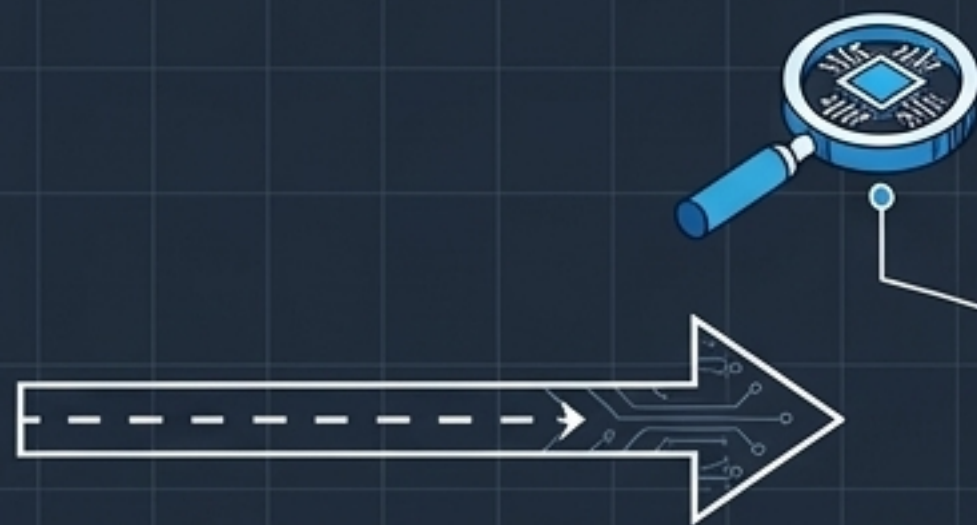
- ・特許出願の正式図面（CAD/SVGでの最終化）
- ・権利範囲を左右する技術事実の決定
- ・侵害訴訟・無効資料の原本作成



証拠保全の厳格な分離 (Chain of Custody)



原本 (Original)



Working Copy

誤った使い方

- ⚠ 原画像をAIに送信し、「ノイズ除去・見やすく加工したもの」を原本とすり替えて証拠提出する。

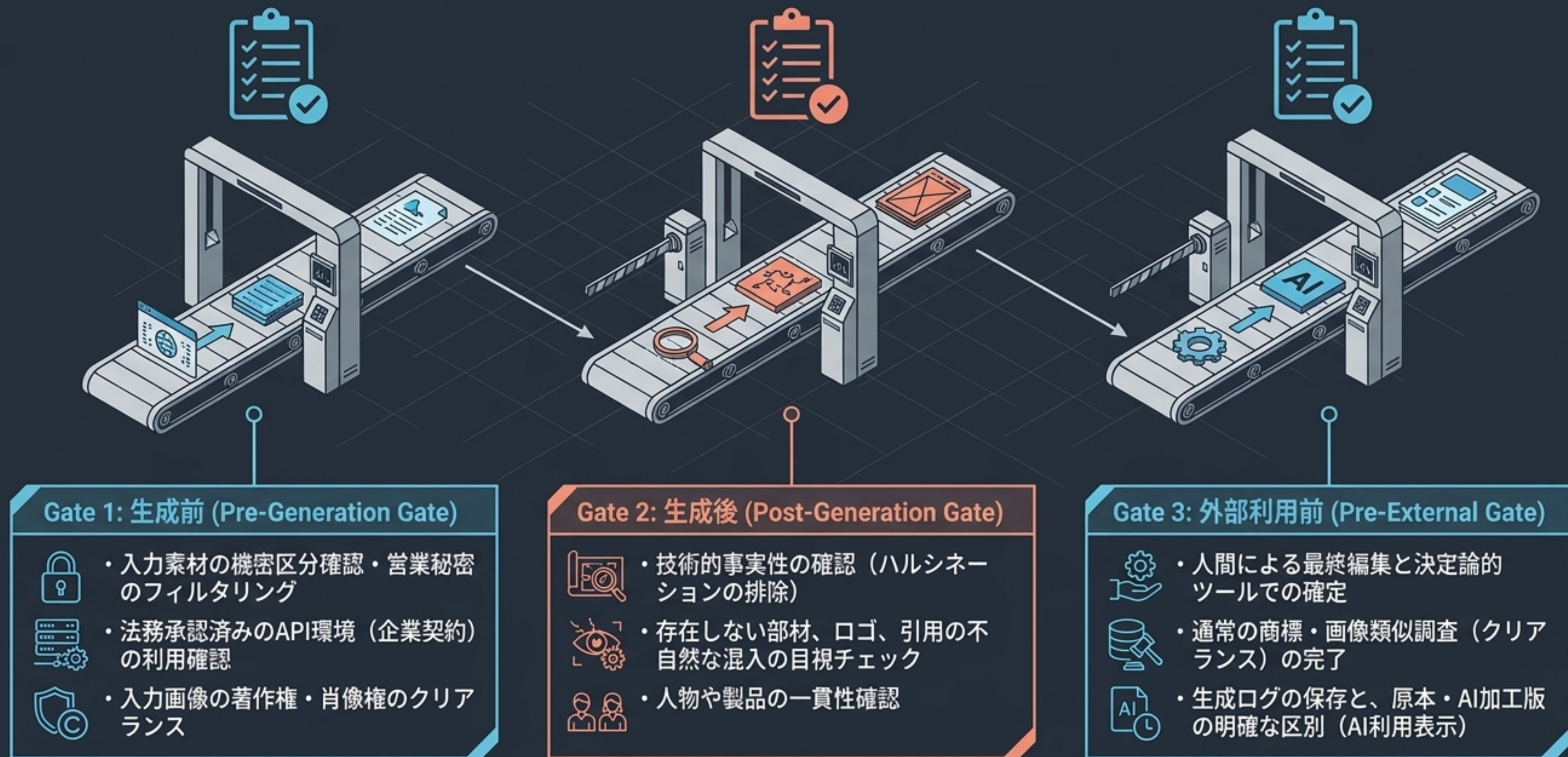
正しい使い方

- ✓ 原本は「Read-only」で不可逆保存 (Immutable)。ファイルハッシュ値、取得日時、取得元URLを記録。
- ✓ AI処理（拡大、背景除去、側面想定図の作成等）は、検索や調査の幅を広げるための「複製 (Working Copy)」に対してのみ実施。

義務化要件

- 📋 加工版には必ず「説明用／AI加工版」と明記し、生成モデル版数・プロンプト・生成ログを原本と分離して保存する。

知財運用チェックリスト：3段階ゲートシステム



社内AIポリシー実装案 (Corporate Policy Mandates)

1. 基本原則 (Core Principle)



法的効果を生じる唯一の根拠としてAI出力を利用しない。AIは高度な実務補助モジュールである。

[AUXILIARY MODULE ONLY] ➔

2. 機密情報ルール (Confidentiality)



無料アカウントの使用を全面禁止。法務・セキュリティ承認済みのAPI環境 (Google Paid Tier / OpenAI Business) のみを使用する。

[PAID TIER / APPROVED ENV] 🔒

3. 権利クリアランス (Clearance)



API契約上の権利帰属にかかわらず、商用・対外利用時は、通常の著作権・商標調査ルートを経由する。

[STANDARD CLEARANCE REQ]



4. 証跡・証拠分離 (Audit & Custody)



侵害調査では原本を不可逆保存する。生成物についてはモデル版数、プロンプト、全出力を案件台帳に記録する。

[AUDIT TRAIL & REGISTRY]



結論とネクストステップ (Conclusion & Next Steps)

AIは創作者兼判断者ではない。厳密な統制下に置くべき 高度な探索・編集ツールである。

1.



1. インフラの確立

企業向けAPIの選定と、DLP（情報漏洩防止）・アクセスログ管理基盤の構築。

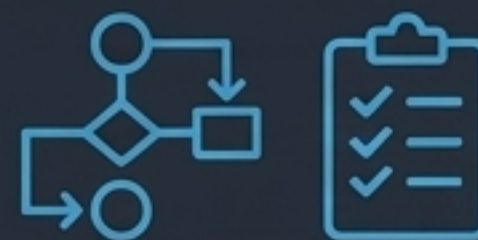
2.



2. コストPoCの実施

自社業務におけるGPT Image 2.5の平均トークン消費量の計測と、Nano Banana 2.1 Batch APIによる定額処理の検証。

3.



3. ワークフローの実装

提示した「3段階ゲートシステム」と「二層化 (Dual-Engine)」を、既存の知財管理プロセスへ組み込む。